

小口貨物の制限は1個の長さ7m 重量3tまたは容積5m³以内となっているが、かつたせん小口貨物を他の貨物と同様な輸送方法によって輸送すると、駅における取卸し困難な場合があり、いちじるしい支障を生ずる。よって著駅の荷役を考慮し、かつたせん小口貨物の輸送に当っては著駅解放の積合車または終着代用車により輸送することを原則とし、列車扱によることを禁止している。しかしながらすべての場合、この輸送方法によることは困難であるので、やむをえない場合は、そのつど関係箇所と打ち合わせ、取り卸しに万全を期した上輸送を行っている。なお中継駅における作業は比較的楽なので1個の重量1tまたは容積3m³をこえないものにかぎり着駅最近の中継駅まで貨車によって輸送することを認めている。(大竹安治)

かつたせん 勝田線 鹿児島本線吉塚駅から出て東南方に進み、宇美駅において香椎線と接続し、さらに勝田に延びる13.8kmの線。鹿児島線に属する丙線である。

大正7・9筑前参宮鉄道株式会社によって開通し、のち西日本鉄道株式会社に合併、さらに昭和19・5政府に買収され勝田線と呼ぶこととなった。(森 梯寿)

カットオフ (締切) (英)cut off ピストン弁または滑弁が蒸気穴を閉そくして、気筒内に蒸気の給気をしゃ断する状態をいうもので、これはピストンが蒸気の供給を受けてから、蒸気が締切られるまでに移動した距りを、ピストンの行程で除し、それを100倍したもので表わされている。締切は機関車形式によってその最大は異なるも、普通は前進、後進おのおの0~75~85%まで表示されており、機関士は列車の運転に当って線路の状態、運転速度、牽引(けんいん)荷重に対応する有効な締切を使用するよう指導されている。カットオフ遅速はつぎのような影響がある。

カットオフが早ければ蒸気の膨脹を十分利用することができるので経済となるが、車輪に働く気筒の圧力が不均となり、機関車の前後動、クランクピンの発熱原因となりやすい。反面においてこれが遅ければ、車輪に働く力は平均化するが蒸気の膨脹を利用することが少ないから、空転防止、連結棒関係の発熱防止以外は前記の影響がない範囲で、できるだけカットオフを早めることが得策である。(野村正義)

カッパーウェルドよりせん カッパーウェルドより線 抗張力の強い鋼線の周囲に銅を同心円に溶着した特殊線をより合わせたもので、銅溶覆鋼より線ともいう。導電率と抗張力により30%導電率特別強力銅溶覆鋼より線、40%導電率強力銅溶覆鋼より線、30%導電率銅溶覆鋼より線の3種類がある。

30%あるいは40%とは硬銅の導電率98%として、その値のそれぞれ30%および40%ということで、特殊な製造法により銅と銅との間に合金層が存在しており引張・捻回(ねんかい)・屈曲等の外力を受けても鋼心と銅被がはく離しないことや、任意の導電率・太さおよび抗張力を選定できることが特長である。

材料は米国 Copperweld Steel Co. より荒引線を輸入し、国内メーカーで伸線加工するものである。



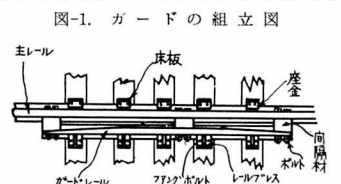
架空送電線、架空地線ならびに各種絶縁電線の心線として用いられ、とくに谷越・川越等の長径間や耐しよく性を要求されるところに使用される。(佐々木晃幸)

カップグリース (英)cup grease 石灰石けん基グリースのことで、鉱油と石灰石けんから作られる。常温でバタ状を呈しボールまたはローラベアリングの潤滑剤に広く用いられる。耐水性を持つが耐熱性に乏しく、高温で水分を失い、成分の分離

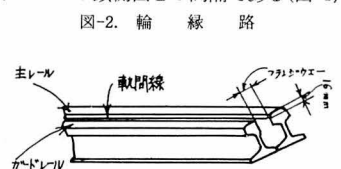
を起し変質するから70~80℃以上では使用できぬ。使用する鉱油はおもに低粘度のもので、石けんの量によって硬さ(ちょう度)の異なるものが作られ、規格には普通ちょう度の数字を頭につけてよばれるから、数字の大きいものほど軟質であることを示す。(河野通郎)

ガード (英)guard 護輪器ともいう。クロッシング部における異線侵入防止と折損あるいは摩耗防止のために使用する軌道構造。ガードレールとその付属品よりなる(図-1、写真-1)。

ガードレールはガードの主体をなすもので、普通レールを加工して作る。付属品はレールプレス、間隔材、座金、ボルト、フレンジボルトおよび床板である。(*ポイント)。



ガードの輪縁路(りんえんろ)はフレンジウエイともいい、主レールの軌間線とガードレールの頭側面との間隔である(図-1、2)。



ガードは通常ガードレールの長さを上につけて呼ぶ。たとえば4mガードはガードレールの長さが4mであることを示す。

ガードレールの長さは各番番の分岐器に応じていろいろある。高マンガン鋼製のガードレールもある。なおクロッシング部のガードばかりでなく、ポイント部につけるガードがある。

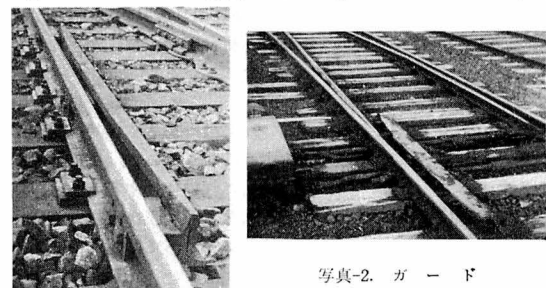


写真-1. ガード

写真-2. ガード

このガードをとくにポイントガードという(写真-2)。(木下勝蔵)
かどうがせん 可動架線 停車場構内のクレーンの荷扱い箇所および可動橋等で、ときどき架線の位置を変更しなければならない箇所(しゅう)に設けられる架線で、垂直方向および水平方向に摺動させる2とおりの方式がある。現在この方式が採用されている箇所は大阪の安治川口のみで、停車場構内での可動架線はまだ実用化されるに至っていない。(佐々木晃幸)

かどうきょう 可動橋 (英)movable bridge (独)bewegliche Brücke (仏)pont mobile 上部構造の動きうる橋梁(きょうりょう)の総称として用いられ、また船車連絡用の施設の1つにもこの言葉がある。

1 河川・運河において船舶の運行に対して橋桁が支障しないよう上下に動き、または左右に開きうる構造とし、船舶の通航しないときは普通の橋梁としてもっぱら陸上の交通に使用するもの。可動橋を動く方向または方法によって区別すればつぎのとおりである。

(1) 旋開橋 (swing bridge)